

## 第3回検討委員会での主な意見

種類	主な意見
基本理念について(骨子案10～11ページ)	
本体	前回の委員会で、現構想の理念を少し長いと言ったが、他の政令市の理念を見てみたり、説明文を読み解くと、今の理念にいろんな意味が入っており、原案のままでよいと思う。
	理念と循環構造はわかりやすい、
	少し長いのかな、と思っていたが、人とまちという相互関係をしっかりとらえていることを思うと、「人がまちをつくり～」は外さない方がよい。
説明文・図	(育てたい人)「VUCA」時代に立ち向かう力として、課題を解決する力のほかに、課題を見つける力も必要。課題を見出す力、自ら問いを立てる、課題発見力について記載があってもいい。
	(育てたい人)「自分を受け入れ、自分を大切にする人」がわかりにくい。例えば、「自分で考え」とか、「自分の成長を信じる」とか。前向きな感じが出た方が、学習意欲や学び続ける姿勢につながるのではないか。
	図に出ている文言一つ一つに重みがあるので、説明文と一致するように点検してほしい。
基本方針について(骨子案12ページ)	
並び順	トレンドを意識した順番だと思うと、学校以外も含めた学びの機会の保障が今のトレンドであり、世相を反映した並びだと思う。
	校長としては、いじめ・不登校がトップに来るのは自然だと思う。方針1に使うエネルギーが多くて、本当は方針2・3にもっとエネルギーを費やしたいが、なかなかやりたいことができていない。
	最初は、大きくて期待のあるものから入った方がよいので、「方針2⇒3⇒1」の順番がよいと思うが、方針1を強調したいという思いがあるとか、子どもたちにとって安心して学べる場という話であれば、方針1が最初でもよいと思う。
	方針2が全体を網羅していて、1番上なのではないか。いじめ・不登校が最初というのは違和感がある。

種類	主な意見
基本方針1について(骨子案13ページ)	
タイトル	方針1は主語が行政(＝学校教育)になっており、市民や子どもたちがお客さんになっている。タイトルでも自分事と思えるようにならないか。
	「安心・安全」みたいな、だれもが対象となる感じを出してはどうか。
	方針は包括的な仕立てで、わかりやすい表現であるのが大切。方針の仕立ては揃えた方がよい。ハイフンの中身(施策名)は説明文や施策にて表現できればよいのではないか。
説明文	第2段落の第1文から始めて、「しかし」第1段落から始めた方がよい。内容はこのままでいいから、順番をかえてほしい。
	不登校児童生徒「等」支援の等について、登校に悩みを抱える児童生徒も含まれるので、「不登校や登校に悩みを抱える児童生徒」という形ではどうか。
	「不登校の増加が見込まれます」だと、人数に対する施策ととらえられる。数のみにとらわれず、社会的自立につなげるのが大切であり、個々に応じた学びの充実が大事。
施策	いじめ未然防止について、学校現場においては、先生たちがしっかり研修を受けるということを繰り返す、といったことをやってもいいのではないか。やり方はオンラインやオンデマンドでも可。
	これ以上にどうやって安心安全を作り出せるか、と考えると、子どもたちの満足度を高める必要があると思う。わかる授業とか、温かい学級づくりとか。心の面で学校で取り組むものを入れてほしい。
基本方針2(骨子案14～15ページ)	
説明文	「答えを探究する」は正解を見つける印象を与える。「答えを」は外していいのではないか。
施策	「国際的視点」がトップというよりは、「自分づくり」と連動することで、教育の成果が上がると思う。
	(施策2-6)中高の連携の必要性も感じている。全員が市立高校へ行くわけではないが、課題を抱える生徒もいる中で、引継ぎは課題だと思う。
	(施策2-7)高校は中学生に選ばれて成り立つ。市立高校の校長としてはどうやって選んでもらうか、というのは大きな課題。特色ある高校づくりとして、ソフト面の個性化は図っている。生徒や保護者が何を重視して高校を選んでいるのか。中長期的スパンで市立高校の在り方も考えていかないといいけない。

種類	主な意見
<b>基本方針3(骨子案16ページ)</b>	
説明文	多様性について、多文化共生に特化しているが、世代間とかも多様性。学校の中でも他学年交流とかは、多様性を育める。縦の多様性という視点があってもいいと思う。
施策	(施策3-3)帰国外国人児童生徒支援について、日本語・英語を理解できない保護者もいる。外部機関の通訳を頼むことがあるが、そういった需要は増すと思う。夜間学級について、大学や通信を経ているが不登校で中学校を体験していない人が多い。様々な学びの支援は、この時代だからこそ必要と思う。
	特別支援教育を一部のこどもへの指導・支援として捉えるだけでなく、多様なこどもたちが共に学ぶインクルーシブな学びの場をつくり出すための具体的な方策を盛り込むことが望まれ、それが次期学習指導要領で重視される個別最適な学びにもつながると考える。
<b>基本方針4(骨子案17ページ)</b>	
施策	アートを活かした魅力創出は、大人にとっても良い取り組みだと思う。ミュージアム連携についても、学びの場の提供として前向きな連携だと思う。
	生涯学習について、インクルーシブな生涯学習をどうやって作っていくか、という方向性も入るとありがたい。
<b>基本方針5(骨子案18～19ページ)</b>	
タイトル	方針5のタイトルの「体制」について、家庭や教師が体制の一部という表現になっているのが気になる。
説明文	学ぶ意欲を子どもに担保するのは教師の本丸。学び続ける教師も大切。働き方改革だけではなく、教師の成長も目立つように扱ってほしい。
施策	体育館空調整備について、先日の津波警報の際、暑さへの対応ができていなかった。避難所になるところの空調は重要なので、拡充してほしい。
	教職員のウェルビーイングと働き方改革を重要課題と捉え、具体的な支援策を示し、教職員が意欲的に教育活動に取り組める環境を整備することが、構想全体の実効性を高める上で不可欠。
<b>各主体の役割について(骨子案20ページ)</b>	
	家庭の役割とかあり方とかがわからない。教育における家庭の役割は大きいと思う。学校が終わったら家庭に帰るのであって、そういう記述があってもいいと思う。